

プロジェクト名：Data Collection Survey on Efficient Agriculture Water Management
(調査期間：2022年～24.0ヵ月、担当業務：節水灌漑)

調査背景

2011年のアラブの春を契機とする反政府運動と内戦の激化により、シリア国内の農業生産は大きな打撃を受けた。2019年にはFAO(国連食糧農業機関)/ICARDA(国際乾燥地農業研究センター)の支援により、隣国レバノンにおいてシリア人スタッフを対象とした灌漑システムの復旧や応急補修に係る研修が実施された。研修を通して参加者が作成した行動計画案を考慮しつつ、現場の農家が抱える問題点や水資源量と水質に応じた対策を検討することを目的として、2022年ICARDAの支援で標題の活動が開始された。この活動にはICARDAの現地スタッフに加えて、過去にJICAが実施した技プロに参加して節水灌漑の普及に豊富な経験を持つカウンターパート達も参加することになった。現地での活動に対する後方支援のメンバーとして、ICARDAの専門家に加えて技プロで研修と普及を担当した国際耕種の専門家も遠隔で参加することとなった。

調査概要

現場において節水効果が高いと考えられる灌漑手法として、太陽光利用灌漑システム、ゲートパイプ灌漑システム、レイズドベッド灌漑システム、家庭菜園用タンク灌漑システム等を想定していた。まずは、対象地域の農家を対象として、土地、水、作目に関連した一般情報に加えて農家が現場で抱える問題点や想定された節水灌漑手法に対する考え方等についても調査を行った。調査結果の解析過程では、それぞれの灌漑手法のデモ活動に適した地域や農家の選定も行った。デモ活動では、それぞれの灌漑手法に適した作物を実際に栽培し、灌漑ノートを使った費用便益分析を基に各灌漑手法の効果を評価した。さらに、参加者に対する研修活動として、節水の重要性や灌漑ノートの利用に関する講義、デモ農家や工場の見学に加えて、農業試験場に準備した研修圃場での配管や灌水量の計測に係る実習も行った。

担当事項

- 農家調査の実施(現地調査、聞き取り調査、データ解析、報告書作成)
- 家庭菜園用タンク灌漑施設のデモ活動(デモ農家の選定、灌漑施設の設計施工、オペレーション・マニュアルの作成、デモ農家への指導、データ収集と解析、報告書の作成)
- 灌漑ノートを使ったデータ収集と費用便益分析(太陽光利用灌漑システム、ゲートパイプ灌漑システム、レイズドベッド灌漑システム、家庭菜園用タンク灌漑システム)
- 参加者に対する研修活動(灌漑ノートの利用方法と破損システムに対する応急措置に関する講義、デモ農家や灌漑部品生産工場の見学、配管や灌水量の計測に係る実習)



農家調査



デモ農家での栽培



デモ農家の見学



配管実習 1



配管実習 2